

国 語 科

端名 秀雄

早谷 憲子

谷口 仁

共同研究者 山本 一（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

本校国語科では、これまでESDに関わる研究を通して、国語科における思考力・判断力・表現力の育成を行ってきた。平成26・27年度は教科間のつながりを図るカリキュラム開発を行ってきた。平成27年度は「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の育成として、特に「代替案の思考力」と「未来像を予測して計画を立てる力」、「コミュニケーションを行う力」に中心的に取り組み、能力・態度の「つながり」に重点を置いた実践を行った。これらのカリキュラム開発の成果で、生徒たちは少しずつ国語科という教科の枠にとらわれることなく、国語科で学んだことを他教科とのつながりの中で思考することができるようになってきている。

そこで、今年度の研究テーマである「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発ーグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指してー」に取り組むに当たって、国語科が担うべき資質・能力につながるものとして、平成28年8月「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ 現代的な諸問題に対応して求められる資質・能力（グローバル化する社会の中で）」より、以下の点について中心的に取り組んでいきたいと考えた。

- ・言語能力を高め、国語で情報を的確に捉えて考えをまとめ表現したりできるようにすること。
- ・古典や歴史、芸術の学習等を通じて、日本人として大切にしてきた文化を積極的に享受し、我が国の伝統や文化を語り、継承していけるようにすること。
- ・文化や考え方の多様性を理解し、多様な人々と協働していくことができるようにすること。

これらは国語科の「歴史的背景などに注意して古典の作品に親しむ」ことや「古典に表れたものの見方や考え方を知ること」、「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと」という古典教材の学習で育成すべき資質・能力とも深く結びついている。また、「新学習指導要領」で示された「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」という「思考力・判断力・表現力」に関する国語科の目標とも合致している。

また、教科等横断的に取り組むという点では、伝統文化そのもので結びつくというのではなく、日本人独特の感性や表現の仕方、それらが育まれている日本という土壌など、大きな枠組みで捉えていきたいと考えた。

2. 資質・能力の育成に当たって

（1）グローバル人材の育成について

〈1年生〉

方言は地域の風土を反映し、日本の伝統や文化の豊かさを示しているという前提の下で、方言と共通語に関する学習活動を行った。

近年、グローバル人材の育成の一環として、特に英語教育が注目されているが、日本人としては、まずは母国語である日本語に対する理解を深めることが重要であると考えます。

さらに、方言を学ぶことで、共通語の役割や日本の言語文化の多様性への理解が深まる。それに

より他国の言語や文化の多様性を理解する素地も作られる。

それが将来的にグローバルな視点で物事を考える際にも役に立つものとする。

〈2年生〉

「枕草子」の学習を通じて、生徒たちは昔の人のものの見方や考え方を理解し、今に通じるものは何かを考えることで日本人の中で育まれてきた独特のものの見方や考え方を理解することにつながった。短歌の学習からは、短歌の内容を理解すると共にどのような感性で筆者が物事を捉えているのか、どのような言葉で心情や情景を表しているのかを考えた。また、自分たちで短歌を創作し、決まった字数の中で言葉にならない思いをどう言葉にするかを考えた。古典教材を中心とした学習活動の中で日本人が季節を捉える感覚や美意識、心情の表し方などを捉えた。

〈3年生〉

金沢市で実施している観能教室を題材に、自国の文化である能楽への理解を深め、発信していくことを目的とした新聞記事の取材・作成を行った。この題材における目的は単元の課題である、読み手を意識した多様な観点による表現の工夫を考えるだけでなく、様々な活動の場で得られる「学びの機会」に目的意識をもって参加し、他に発信していくことで自己の理解をより深めていくことに重点を置いている。生徒たちは活動を通して、自分なりの見どころを設定するなど目的意識をもって観賞に臨む意欲や、下調べや実際に鑑賞することで得た体験や知識を、伝える相手を意識することでどのようにわかりやすく表現できるかと工夫する姿勢を見せた。

(2) 関連・連携の考えられる教科等について

〈1年生〉

地域独自の言語文化という点、また、東西の大きな境目がフォッサマグナと重なるという点などから、社会科の地理分野との連携の可能性はある。

〈2年生〉

「枕草子」では、移ろいゆく四季の自然を表す色という点で、美術とのつながりが考えられる。短歌は英語で表現することもできるのではないかと考えられる。

「平家物語」では、屏風から物語を読み取る際に美術科の鑑賞の授業が生かされ、時代背景等の理解においては社会科で学んだことが生かされた。音楽科では国語科の授業の後に「平家物語」の「箏による旋律の創作」を行う。その際は国語科の読解が旋律づくりに生かされると考えられる。

〈3年生〉

音楽の授業で「能」と「歌舞伎」の比較を行い、用いられている楽器や謡いの特徴、楽器の特質や歌舞伎との違いを記事に採り上げる生徒も多かった。また能の起源や歴史といった時代背景について、流派の違いやその発生について社会科と連携し解説が加えられた。

3. 成果と課題

(1) 成果

〈1年生〉

生徒たちの中には、方言は昔の言葉であって、聞いたことはあるが自分たちは用いることがないという意識を持っているものがかなりいるように感じている。しかし、実際には日常の話し言葉の中に方言語形の言葉が混在しており、それを方言として意識することなく用いている場合が多い。そのような生徒たちに、言葉（方言を含む）は変化しながら受け継がれ、いわゆる伝統的な言語という文化となっているということを認識させたいと考えた。今回の実践では時間の関係もあってそこまでには至らなかったが、全国各地の方言による詩の朗読を映像で視聴させること

により、方言の言語文化としての魅力を再発見させることができたのではないかと考えている。

〈2年生〉

短歌や古典の教材を通して、日本人ならではのものの見方や考え方を捉えてきた。古典の授業の展開において、具体例を取り上げる中で生徒自身が現代とのつながりを見つけたり、おもしろさや感動を捉えたりすることができた。自分なりに古典に親しみが持てたのではないかと考えられる。古典の中にも悲しさや温かさがあり、それらは現在の自分たちにも理解できる心の動きであるということに気づけたこと、現代とかけ離れている物語ではないということが理解できたことにより、そこに描かれている登場人物の心情や状況の理解につなげることができた。

〈3年生〉

古典や伝統文化の題材に対して、自分なりの観点を設定することでより深く分析したり、根拠を示しながら自分の感じ方を説明したりする活動を経験してきた。これまでの鑑賞に比べ、和歌のことばや口語訳に留まらない自分なりの考察を深めて表現することができていた。特に作者や歌の中の人物の立場で考えるために、情景やものの見方など歌の世界を具体的なものとして捉え、自らの言葉で表現したり、新しい視点を取り入れたりする考え方が身に付き、多くの生徒が課題の達成に役立っていた。鑑賞以外の場面でも、自分の視点を明確にすることで、より説得力のある批評や文章にしようとする姿勢が見られ、互いに評価する際にも相手のものの見方やそれに対する気づきなどを指摘しあっていた。

(2) 課題

〈1年生〉

生徒たちが、自らが方言という言語文化継承の担い手であるという意識をもって言語生活を送ることができるようにするためには、授業等で方言を取り扱う機会をもっと増やさなければならぬのではないかと考えている。そのために、日常のちょっとした言葉遣いについて（特に方言語形の）取り上げたり、今回視聴させた映像のように詩を方言に直して朗読させるなど、生徒たちが興味・関心を持ちやすい学習活動を工夫することが必要になってくる。

〈2年生〉

古典の教材を学ぶ中で、日本人独特の感性や考え方に迫ってきたが、日本人とはこういうものだという画一的な捉え方に陥ってきている面もある。様々な具体を取り上げる中で一つの価値観に集約されるだけでなく、様々な側面で多面的・多角的に捉えていけるよう工夫をしていきたい。

また、国語科という教科の特性から、語学力・コミュニケーション能力の育成においては、どの教科ともつながることができる。伝統文化教育という教材では、つながることはできなくとも、それを発信する際や自分の考えを述べる際に国語科で学んでいることは生かされている。そのような意味でも国語科の担うべき役割を今後も考え、実践していきたい。

〈3年生〉

古典という伝統文化に関わりが深い教材を扱うからこそ、他教科との連携を含めた広域的・計画的な指導が必要となる。今回の歌物語という教材においても、和歌が詠まれた時代背景や生活様式など、様々な教科の知識や資料を交えることで、より歌の世界を具体的なものにできると考えられる。また学習を経て身に付けた力を、どのように高校以降での学びに繋げ発展させていくのか、作品や題材に関する知識や関心、内容に重複する部分はないのかといった教科横断を意識することで、活動をより発展的なものにしていくことが今後の課題である。

実践事例

国語科 1 年

授業者 端名 秀雄	授業日 6 月 27 日 (火) 1 限～ 4 限
授業クラス, 教科等名	1 年 1～4 組 関係・連携の考えられる教科等 社会 (地理)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・ 地域文化 ・ 伝統文化 ・現代の日本文化	授業内容 ・方言と共通語の違いを考える。 ・詩の朗読を聞いて文字で書き取り, 金沢ことば (方言) の特徴を知る。
特に関わる要素 I ～ III 要素 I : 語学力・コミュニケーション能力 要素 II : 主体性・積極性, チャレンジ精神 協調性・柔軟性, 責任感・使命感 要素 III : 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力 (本時について) ・詩を方言で聞くことにより, 方言に関心を持つことができる。 ・方言を文字で表現することにより, 特徴を理解することができる。
授業のポイント・流れ 要素 III を「方言」バージョンで読み替えると, 「他地域の言語に関する理解と, 金沢ことばを話す地元人としてのアイデンティティー」ということになるであろう。 「他地域の言語に関する理解」は, さまざまな地域の方言を聞き比べることによってその良さを感じ取らせたい。 「金沢ことばを話す地元人としてのアイデンティティー」に関しては, 地元の金沢ことばの特徴を知ることによって, 共通語や他地域の方言に勝るとも劣らない良さがあることを実感させる。 題材として宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」を扱う。NHKの学校放送用番組「にほんごであそぼ」で, その詩を方言で朗読しているものがあるので, その中から「金沢ことば」で朗読しているものを聞かせる。 聞き取って文字で表現させることで, 金沢ことばの特徴を理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: right;">「雨にも負けず」 宮沢賢治</p> <p>雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫な体をもち 慾はなく 決して怒らず いつも静かに笑っている 一日に玄米四合と味噌と 少しの野菜を食べ あらゆることを 自分を勘定に入れず よく見聞きし 分かり そして忘れず 野原の松の林の陰の 小さな萱ぶきの小屋にいて 東に病気の子供あれば 行って看病してやり 西に疲れた母あれば 行ってその桶の束を負い 南に死にそうな人あれば 行って怖がらなくてもいいと言ひ 北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめると言ひ 日照りの時は 涙を流し 寒さの夏は おろおろ歩き みんなに 木偶坊 (でくのぼう) と 呼ばれ 褒 (ほ) められもせず 苦にもされず そういふものに 私 は な り た い</p> </div>	

実践事例

国語科 2年

授業者 早谷 憲子	授業日 6月15日(木) 3限	
課題名 難等	2年 1組	関係・連携の考えられる教科等 社会(歴史) 美術
扱う伝統文化 ・生活文化 (伝統文化) ・地域文化 (現代の日本文化)	授業内容 ・清少納言の「枕草子」と「自分流枕草子」を比較し、相違点や共通点を話し合い、清少納言の「枕草子」のよさについて考える。	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力 (コミュニケーション能力) 要素Ⅱ：主体性・積極性, チャレンジ精神 協調性・柔軟性, 責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー		教科等で身に付けたい力(本時について) ・清少納言の「枕草子」と「自分流枕草子」を比較し、相違点や共通点を話し合うことができる。 ・清少納言の「枕草子」のよさを自分で考え、書くことができる。
授業のポイント・流れ ・「自分流枕草子」を読み直し、根拠がわかるように書いてあるかを確認する。 ・「自分流枕草子」を読み、時間帯や風物などが季節を代表すると考えた根拠を説明する。 ○清少納言の「枕草子」と比べ、相違点や共通点を話し合う。 (要素Ⅰ コミュニケーション能力) ・共通点として出たことはどのようなことか、確認する。 ホワイトボードにメモし、代表者が発表する。 発表後、黒板に貼ってあるホワイトボードから共通する事項を探す。 共通点として挙げたこと⇒自然の風物, 人の感情 相違点として挙げたこと⇒行事, 季節ごとの風物, 昔や現在にしかないもの ・清少納言の「枕草子」がなぜ、長きにわたって日本人に親しまれているのかを考え、「枕草子のよさ」としてまとめる。(要素Ⅲ 日本人としてのアイデンティティー) (生徒の考え) ・現代も変わらない人の感じ方やものや風景, 四季に対するものの見方など, 分かりやすく, 今の時代と比べても比較しやすいところがよい。 ・今も変わらない自然の美しさや人の行動などを取り上げ, 視覚や聴覚を使って言葉の微妙な使い分けをして細かいところまで書きつづっているところがよい。また, 清少納言の目のつけどころがとてもおもしろく, 風景の変化や季節の変化を色や音を使って表現している。 ・「枕草子」には今にもつながる自然についてのことや身近なことが書かれているため, 現代の人も共感することができる。また, 季節のことだけではなく, 清少納言の自慢や貴族の生活が文章中からわかるところがよい。		

実践事例

国語科 2年

授業者 早谷 憲子	授業日 6月27日(火) 4限
授業形態	2年 4組 関係・連携の考えられる教科等 社会(歴史) 美術(陶芸) 英語
扱う伝統文化 ・生活文化 ・伝統文化 ・地域文化 ・現代の日本文化	授業内容 ・自分と筆者の短歌の捉え方を比較し、短歌の表現を味わう。 ・自分が感じた短歌のよさを根拠を明らかにして他の人に伝える。
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力 コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神協 調性・柔軟性、責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力(本時について) ・短歌の内容を理解し、読み味わうことができる。 ・自分がよいと思ったことを根拠を明らかにし て説明することができる。
授業のポイント・流れ ・教科書本文や国語便覧を参考にし、短歌の大意や表現についてワークシートにまとめる。 ・五首の短歌のうち、好きな短歌の印象に残った表現を抜き出し、そこから自分がどのようなこと を感じたかを考え、ワークシートにまとめる。 ・筆者のものの見方や感じ方との相違点や共通点をワークシートにまとめる。 ○短歌の表現を根拠とし、選んだ理由やよいと感じた理由を班で発表する。 (要素Ⅰ コミュニケーション能力) ※「筆者は～という言葉から・・・という印象を抱いていたが、私は～」などの 話し方で筆者の捉え方との相違点や共通点も明らかにして伝える。 (生徒の考え) ・「食ひをはりけり」という表現が好きだ。「食ひをわり」だけだと何の心もなく食べたように感じてしま うが、「けり」があるだけで「食べてしまった」という後悔が感じ取れる。 ・「こちして」という言葉が全く確信を持っていないが、気分がうずうずして、体が思わず動いてしま ったというような雰囲気をかもしだしているように感じた。 ・私は「春雨」が降った後に太陽が出る様子を想像したけれど、筆者は太陽については触れていな かった。 ・筆者は「ゆたけき」を「甘く豊かな果汁」と捉えているが、私は桃の色の鮮やかさと甘い匂いのことを 指していると考えた。 〔次時へのつながり〕 ・短歌がいつ頃からよまれ、私たちに引き継がれてきたかを確認する。 ○短歌から感じられた日本人独特の感性とはどのようなものかを考え、まとめる。 (要素Ⅲ 日本人としてのアイデンティティー)	

実践事例

国語科 2 年

授業者 早谷 憲子	授業日 11月23日(木) 2限	
課題名 概略	2 年 4 組	関係・連携の考えられる教科等 社会(歴史「中世」) 美術(「鑑賞」) 音楽(「箏による旋律の創作」)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・伝統文化 ・地域文化 ・現代の日本文化	授業内容 ・「平家物語」の中で印象に残った場面を考え、班で発表し合うことで、何が人々の胸を打つのかを考える。 ・長い間、人々に愛され続ける理由や現在の私たちが魅力に感じるところは何かについて、話し合うことで物語の魅力を探っていく。	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力 コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神協 調性・柔軟性、責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティ		教科等で身に付けたい力(本時について) ・印象に残った場面を基に、「平家物語」の魅力が何なのか話し合うことができる。 ・物語の魅力をキャッチコピーとしてまとめることができる。
授業のポイント・流れ ・キャッチコピーとは何かを知り、今回は短い字数で魅力をまとめることを確認する。 ・各自、印象に残った部分についてワークシートにまとめる。 ※今回は「扇的」「弓流し」「敦盛の最期」「建礼門院徳子の独白」の場面をから選ぶこととした。 ・自分の意見を根拠を明らかにして班で発表する。 ○「平家物語」の何が人々の胸を打つのか話し合う。そこから長い間人々に愛され続ける理由は何か、「魅力」を伝えるにはどのような言葉で表せば良いかを考える。 (要素Ⅰ コミュニケーション能力) (生徒の考え) ・物語などではない、史実の中に渦巻く武士たちの心情や抗えない世の流れが描写と共に感じられることだと思う。 ・「平家物語」の魅力は、武士の世界を生きた人たちの名誉や涙など、武士の世界のはかなさや非情さが描かれていることである。 ・「平家物語」の魅力は、武士たちの誇り高き行動をたくさん見ることができることです。自らの命よりも武士としての名誉をかけて戦う様はとてまかつこいと思ったからです。 ・「平家物語」の魅力は、名誉をかけた強い意志を持つ武士たちが命懸けで戦う、男気と迫力にあふれた様を周りの情景や雰囲気と共に擬声語などで表すところです。また、男性だけでなく女性の波乱な人生を描いたり、戦いの中の希望や平和などの場面も書き記されていて感動できるところが魅力だと思いました。 ・「武士だから殺さねば」と「人として殺しがたい」のような立場と人情に揺れる人の心情が細かく描かれているところがよい。 ・「平家物語」の魅力を各自でキャッチコピーとしてまとめる。 ・クラスで発表する。 (発表例)「武士と人間のはざままで揺れ、めまぐるしく変わった人々の物語」 「守りたい名誉 逆らえない世の流れ」		

実践事例

国語科3年

授業者 谷口 仁	授業日 6月27日(火) 3限～4限
授業クラス, 教科等名 3年1,2組	関係・連携の考えられる教科等 音楽 社会

扱う伝統文化

- 生活文化
- 伝統文化
- 地域文化
- 現代の日本文化

授業内容

- 「能」について知っていることを発表する。
- 映像資料から「能」の基礎知識について理解する。
- 資料やあらすじをもとに、さまざまな観点から「能」を鑑賞する上での見所を考える。

特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神
協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と
日本人としてのアイデンティティー

教科等で身に付けたい力（本時について）

- 古典芸能「能」について興味を持ち、学ぼうとする。
- 観点を持って「能」の見所を考え、わかりやすく伝えることができる。

授業のポイント・流れ

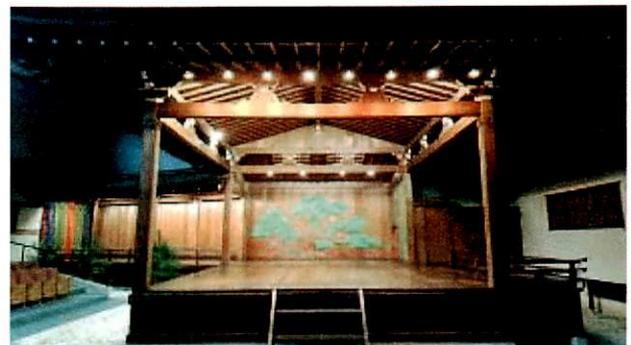
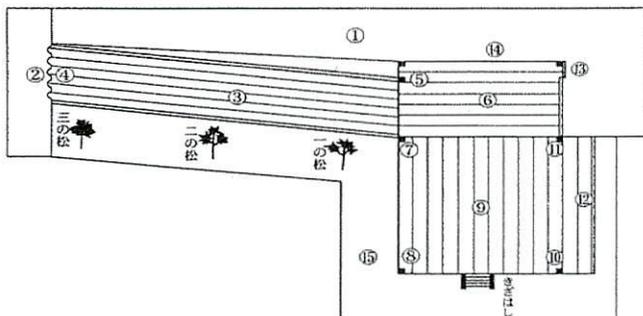
意見交換や映像資料から以下のような観点を確認する。

「あらすじ」「能面」「衣装」「舞台」「謡い」「舞い」「楽器」など

これらを土台に、興味を持った観点から、能を楽しむための具体的な見所を考える。

見所を題材に記事を作成することを確認し、これからの下調べや素材探し、当日の鑑賞での意欲付けにつなげる。

次時以降興味を持った観点について話し合い、本番の鑑賞に向けて下調べを行っていく。



実践事例

国語科3年

授業者 谷口 仁	授業日 11月23日(木) 1限																
授業クラス, 教科等名 3年2組	関係・連携の考えられる教科等 社会																
扱う伝統文化 <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化 ・伝統文化 ・地域文化 ・現代の日本文化 	授業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容や「伊勢物語」を参考に歌物語の書き方を確認する。 ・選んだ和歌の歌物語を書くための設定を話し合う。 																
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ： 語学力 ・コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神 協調性・柔軟性、責任感・使命感 要素Ⅲ： 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ	教科等で身に付けたい力（本時について） <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景やそれぞれの和歌の特徴を捉えながら読むことができる。 ・和歌に表れた心情や情景などについて自分の考えをもち、考えをまとめ表現することができる。 																
授業のポイント・流れ <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢物語を例に、和歌が詠まれた場面や情景を伝える物語を作成する鑑賞形式を説明する。 ・学習した山部赤人の和歌をモデルに、『歌物語の設定に必要な要素』と『歌物語の作例』を提示し、自分がイメージした和歌の世界を伝えるために必要なポイントを考えさせる。 ○和歌から伝わる情景や心情を伝えるために、5W1Hといった情景描写や、五感で感じ取れる要素など、和歌そのものや口語訳には書かれていない部分まで想像し、和歌の主題にあった物語の設定を考えさせる。 ・グループでまとめた和歌の世界観を発表する。発表で出された観点で、自分の歌物語に生かせそうなものを活用するように指示する。 <p style="margin-top: 10px;">和歌の短い言葉から自分なりの情景を想像し、物語としてまとめ直すための場面設定を目的とする。話合いの中で自分では見えなかった世界観や観点を交流し、歌物語の表現につなげる。</p>																	
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <tr> <td style="width:10%; padding: 2px;">(他の歌との比較)</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">長歌</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">表現</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">季節・時間</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">人物</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">気持ち・心情</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">場所・場面</td> <td style="width:15%; padding: 2px;">○歌物語の設定を考えよう。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">には見えないので想像か。</td> <td style="padding: 2px;">富士山の高さ・大きさを表現。「流る日」「照る月」は同時</td> <td style="padding: 2px;">・真白に彩る雪は降りける(縁語) ・物句・二句の手余り ・田子の浦の長さの表現</td> <td style="padding: 2px;">夏 夏は富士山の雪に驚きを覚えていながら、夏は暑さの中だからなびきら雪に驚いた。</td> <td style="padding: 2px;">山部赤人(作者) 田子の浦の途中に、田子の浦を過って東国の方へ向かっている。</td> <td style="padding: 2px;">冠着した姿を見て、はっと驚かされるような強い衝撃と感動。</td> <td style="padding: 2px;">田子の浦を過って開けた所へ出た。富士山の雪に真白は驚いていなかったのは、長い距離歩いてきたからか。</td> <td style="padding: 2px;">田子の浦ゆちち出でて見れば真白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける</td> </tr> </table>		(他の歌との比較)	長歌	表現	季節・時間	人物	気持ち・心情	場所・場面	○歌物語の設定を考えよう。	には見えないので想像か。	富士山の高さ・大きさを表現。「流る日」「照る月」は同時	・真白に彩る雪は降りける(縁語) ・物句・二句の手余り ・田子の浦の長さの表現	夏 夏は富士山の雪に驚きを覚えていながら、夏は暑さの中だからなびきら雪に驚いた。	山部赤人(作者) 田子の浦の途中に、田子の浦を過って東国の方へ向かっている。	冠着した姿を見て、はっと驚かされるような強い衝撃と感動。	田子の浦を過って開けた所へ出た。富士山の雪に真白は驚いていなかったのは、長い距離歩いてきたからか。	田子の浦ゆちち出でて見れば真白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける
(他の歌との比較)	長歌	表現	季節・時間	人物	気持ち・心情	場所・場面	○歌物語の設定を考えよう。										
には見えないので想像か。	富士山の高さ・大きさを表現。「流る日」「照る月」は同時	・真白に彩る雪は降りける(縁語) ・物句・二句の手余り ・田子の浦の長さの表現	夏 夏は富士山の雪に驚きを覚えていながら、夏は暑さの中だからなびきら雪に驚いた。	山部赤人(作者) 田子の浦の途中に、田子の浦を過って東国の方へ向かっている。	冠着した姿を見て、はっと驚かされるような強い衝撃と感動。	田子の浦を過って開けた所へ出た。富士山の雪に真白は驚いていなかったのは、長い距離歩いてきたからか。	田子の浦ゆちち出でて見れば真白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける										